

旧広島陸軍被服支廠の今後の方針について

（令和 3 年 5 月 1 9 日
経営企画チーム）

1 概要

- 被服支廠について、2月定例会などでの議論を踏まえ、今後の方針を整理する。

2 これまでの検討の方向性について

- 2月定例会における県議会との議論を踏まえ、スケジュールとあわせて、「1棟保存、2棟解体」の現行方針案の見直しも含め、最終的な方向性を検討・整理していく。
併せて、建物の安全対策は、周辺への影響に鑑みると、早急な検討が必要であると考えており、その検討にあたっては、将来の利活用に支障がなく、また、費用が低廉となる耐震補強工法を選択する必要があることなどを念頭に、早急に検討を進めていく。
また、国や広島市に当事者の立場で参画いただきながら、利活用策の検討を進める。

3 今後の安全対策について

- 安全対策は早急に検討を行う必要があり、耐震性を確保しつつ、内部見学などの利用が可能となる安全対策と最小限の利活用を同時に実現するパターン（パターン2）を基に、建物3棟の安全対策を実施するとともに、安全対策に係る実施設計に必要な予算について検討を進める。

4 重要文化財の対応について

- 文化庁からは、パターン2による耐震補強案は概ね妥当との意見をいただいたことから、安全対策後の建物の維持補修や将来の利活用が進んだ際に必要な、追加の耐震補強費などに対して、国からの支援を受けるためにも、将来に向けた取組として、重要文化財の指定に向けた調査を実施することについて、文化庁に説明し了解を得た。
- 重要文化財の指定に向けて、建物の管理・活用の方向性等を整理する必要があることから、有識者等による検討組織を設置し検討を進める。
- 重要文化財の指定に向けた調査等に必要な予算について検討を進める。

5 利活用の検討について

- 利活用については、建物が持つ価値として、国指定重要文化財級の国内最古級RC造建築物群であり、被爆の実相を未来に伝える建物であることを最も重視しながら、国、県、広島市で設置した「旧陸軍被服支廠の保存・継承にかかる研究会」の場で、具体的な利活用を検討していく。

6 財源の確保について

- 国に対しては、パターン2を基に、建物3棟の安全対策を進めるとともに、重要文化財の指定に向けた調査や利活用の検討を行うことを説明し、被服支廠の保存に関する支援について、引き続き協議を行っていく。
- 広島市については、パターン2を基に、建物3棟の安全対策を進めるとともに、今後、当事者の立場で利活用策の検討に参画いただきながら、費用負担も視野に入れた協議・検討を進めていく。